

■福地源一郎(桜痴) ふくちげんいちろう 天保改革始・1841＝	ジャーナリスト、歌舞伎作者。新聞の力を認識させるも御用記事で凋落、歌舞伎に転向して成功。 長崎新石灰町で、医者福地苟庵の子に生まれる。
阿部正弘首座1845＝ 4歳：	
・ ・ ・ ・ ・ 1847＝ 6歳：	長川東洲について漢学を学ぶ。
国定忠治疎・1850＝ 9歳：	
ペリー来航・1853＝12歳：	
松下村塾・ ・ 1856＝15歳：	オランダ大通辞の名村花蹊に入門。
五ヶ国条約・1858＝17歳：	才知抜群の誉れ高く、請われて名村家の養子となったが、同僚塾生から排斥され、
安政の大獄・1859＝18歳：	江戸に出た。森山多吉郎に英学を学び、その薦めによって、
桜田門外変・1860＝19歳：	通辞として江戸幕府に出仕した。
遣欧使節・ ・ 1861＝20歳：	遣欧使節に従ってヨーロッパを見学。
薩摩藩士密航1865＝24歳：	再び、遣欧使節に従ってヨーロッパを見学。
薩長同盟・ ・ 1866＝25歳：	ヨーロッパ文明に傾倒し、幕政改革を画策したが不首尾に終わり、江左風流第一才子と自称して、遊蕩。
大政奉還・ ・ 1867＝26歳：	幕府の瓦解により失職し、
明治維新・ ・ 1868＝27歳：	{江湖新聞}を出し余憤を吐くが、筆禍により発禁、投獄となり、廃刊した。売文・遊蕩生活が続けるうち、
戊辰戦争終・1869＝28歳：	浪沢栄一の紹介もあって伊藤博文、木戸孝允らに認められ、
初の日刊新聞1870＝29歳：	仏・英学塾日新社を興し、中江兆民ら来学する。「外国交際公法」を訳す。
廃藩置県・ ・ 1871＝30歳：	大蔵省に出仕し、伊藤博文に従いアメリカに行き調査。
明治6年政変 1873＝32歳：	一旦帰国して「官板会社弁」を訳したのち、岩倉使節団の米欧巡遊に一等書記官として加わったが、
佐賀の乱・ ・ 1874＝33歳：	官界に合わず、
初の民間工場1875＝34歳：	辞職して、{東京日日新聞}に主筆として入社する。
三つの反乱・1876＝35歳：	{東京日日新聞}は好評で発行部数が急上昇。福地の書く“社説”は、言論機関としての新聞の力を社会に大いに認識させた。実現可能な体制内改良、漸進主義をその政治志向とし、民権派新聞と論争したが、開拓使官有物払下事件のスキャンダルでは、政府攻撃の先頭に立った。
西南戦争・ ・ 1877＝36歳：	社長となる。
琉球処分・ ・ 1879＝38歳：	西南戦争には記者として従軍し、帰京して天皇に戦況を奏上した。
明治14年政変1881＝40歳：	*福地桜痴訳「マナー」を脚色した「人間万事金世中」初演(東京における翻訳物上演の初め)。 ＜明治14年の政変＞後は政府側にまわり、立憲帝政党(帝政党)をつくった。伊藤博文系の人脈との連携や年来の政治志向からは自然の選択であったが、“御用新聞”の非難を増大させる結果に終わり、福地の信用は漸次凋落していった。
秩父事件・ ・ 1884＝43歳：	主筆を辞め、論壇を引退して、
帝国大学始・1886＝45歳：	
国民之友始・1887＝46歳：	{東京日日新聞}が経営不振に陥る。
初の対等条約1888＝47歳：	社長も譲って退社。小説家に転向。「増訂もしや草紙」刊。
帝国憲法発布1889＝48歳：	収賄事件に連座し、無罪となるも信用失墜。歌舞伎座の座主も追われ、負債はますます増加。
帝国議会始・1890＝49歳：	*市川団十郎に共鳴、歌舞伎作者として立つ。演劇改良運動に熱中、近松門左衛門を改作した「相馬平氏二代譚」初演。以後、傑作が続き、
足尾鉾毒始・1891＝50歳：	同じく「武勇誉出世景清」初演。「春日局」、(トスカ翻案)「舞扇恨之刃」、
大本教・ ・ 1892＝51歳：	「襖落那須語」初演、史論「幕府衰亡論」、
郡司千島探検1893＝52歳：	「春興鏡獅子」初演、
日清戦争始・1894＝53歳：	「日蓮記」「海陸連勝日章旗」初演、「懷往事談付新聞紙実歴」など貴重な史論を残した。
日清戦争終・1895＝54歳：	
八幡製鉄始・1897＝56歳：	「大森彦七」、「俠客春雨傘」など、多くの戯曲、小説をを発表し、歌舞伎立作者の座は不動のものとなる。
	諸誌紙に短編、随筆、評論、雑文などを書く。
田中正造直訴1901＝60歳：	「芳哉義士誉」初演。
日比谷公園・1903＝62歳：	*団十郎が死去したため、作者を辞め、最後の事業を政治に残そうとし、
日露戦争始・1904＝63歳：	衆議院議員に当選するが、
日露戦争終・1905＝64歳：	病床につき、
満鉄発足・ ・ 1906＝65歳：	没した。